

オッズパーク杯

9/10(木) 11(金) 12(土)



川崎スポーツ

レース展望

9月10日開催の川崎FIIナイター「オッズパーク杯」はA級1・2班戦と3班チャレンジレース、ガールズケイリンで構成され1日11レース。東日本と中四国・九州から集まる選手での好勝負が予想される。

優勝候補の筆頭は福岡県小倉から登場する尾野翔一(127期)。養成所をナンバーワンで卒業して、デビューから1年半を過ぎた現在でもA級で走っているのが不思議なぐらいの実力の持ち主。通算勝率75%・連対率は90%を誇り、その機動パワーをフルに発揮すれば3連勝は順当だろう。同県の神開一輝(119期)がガッツリマークで、ワンツー決着から人気に応えるはず。南関東ではホームバンクの先行型高本和也(121期)や今期2班ながら若く勢いのある大塚

城(静岡127期)が思い切った組立てからレースを作り、地元のベテラン松坂英司(82期)や機動力健在の矢口大樹(千葉95期)がそれに続いて上位進出を決めるか。北日本からは大高彰馬(福島119期)を先頭に、捲り脚兼備の山本恵介(福島100期)や松澤敬輔(北海道97期)が直線での喰い込みを狙ってくる。関東はブンブン先行の川田真也(埼玉125期)や川越宏臣(東京125期)の勝ち上がり次第で、実績十分な藤原憲征(新潟85期)や成績安定している長井優太(東京95期)の差脚が生きてくるだろう。中四国勢の主力は自在脚ある大西祐(岡山91期)となり、単騎勝負も苦にしないタイプなので好位から捲り追込みを狙うか、積極的な蔭野翔太(徳島115期)との関係から

ゴール前突っ込んでくるか。

チャレンジレースでは129期生2人がシリーズの中心になることに期待。地元大村涼兼は8月西武園で待望の初優勝を決めてホームバンクに乗り込み、いつも通り主導権を奪う組立てに徹底する。田中衛太(長崎129期)は4場所連続決勝進出と好調キープしているだろう。

ガールズは地元大浦彩瑛(126期)の独壇場になりそう。8月松阪で久々のV奪取を決めて昇り調子は間違いなく、点数次ぐ青木美保(埼玉118期)や林真奈美(福岡110期)との争い。

A級
主力選手



尾野翔一 福岡 127期

プロ野球の独立リーグから転身して、127期ナンバーワンの成績を残してデビューを果たす。いまはナショナルチームに在籍して更に脚力を磨いている。惜しいところでS級特進を逃し続けているが、S級でも十分に通用する機動力を持ち、今シリーズの優勝候補筆頭だ。

A級
主力選手



大塚 城 静岡 127期

父は82期の大塚英伸であり、アマチュア時代の経験も豊富で、今後の成長が楽しみな若手。持ち味のダッシュ力に加えて、積極的なレースを続けることでだいぶ末の粘りが付いてきた。安定感が課題で、いまは弱点の持久力を克服するために先を見据えた走りに徹する。

A級
主力選手



大高彰馬 福島 119期

今年3月に奈良で1・2班戦でようやく初優勝を果たし、4月の青森でも2度目のVを達成しており、さらなる飛躍が期待される。春先ほどの勢いはないが、もちろん優勝候補の一角でS級昇級も狙える実力。以前ほどの積極性はないが、逃げ・捲りを流れて使い分ける。

A級
注目選手

佐藤和典

神奈川 70期



平塚・玉野で連続Vを決めるなど、まだまだ元気なホームバンクのベテラン選手。50代半ばを迎えた今でも、鋭い決め脚で20代の選手の自力を交わす。今シリーズは平塚でも勝利に貢献してくれた大村涼兼(神奈川129期)もあっせんされており、頼もしい存在となる。

ガールズ
注目選手

大浦彩瑛

神奈川 126期

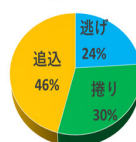


ここ川崎をホームバンクにしており、養成所時代はゴールデンキャップを獲得するほどの素質の持ち主で、ようやく昨年あたりから頭角を現し始めた。いまやGIの常連選手となりつつあるが、上位陣との壁はまだ厚い。もう一段階乗り越えればGP出場もみえてきそう。

川崎競輪場バンクガイド (2024年1月~12月データ)

昨年1年間28開催・936レース(ガールズケイリンを含む)の川崎バンクの決まり手は右表の通り。昨年までのデータと逃げ・捲り・追込・マークのパーセンテージには大して変わりはないが、1着に限って言えば逃げ・捲りの決まり手は変わらず50%を超えているので、自力型のアタマから組み立てていく車券戦略が可能だろう。川崎名物イエローライン付近のゴール前強襲は、選手たちも新バンクに慣れて徐々に出現率が高くなってきている感であり、力のある追込型はたとえ後方に置かれたとしても、最終4コーナーから一気に巻き返す可能性もあり軽視出来ない印象だ。

1着決まり手



2着決まり手



尾野翔一と大浦彩瑛のV奪取有力!!